

# Red Hat Satellite Server 6.10

Red Hat Satellite Server は統合サブスクリプション管理を提供

## はじめに

Red Hat® Satellite Server は、物理環境、仮想環境、クラウド環境での Red Hat インフラストラクチャのデプロイ、スケーリング、管理を容易にするシステム管理ソリューションです。Red Hat Satellite Server は、システムが効率的かつ安全に、さらには関連基準に準拠して稼働するよう、ユーザーによるプロビジョニング、設定、および更新を支援します。Red Hat Satellite Server を導入することでシステムの保守にかかわるほとんどのタスクを自動化できるので、組織は効率を高め、運用コストを削減し、戦略的ビジネスニーズにより効果的に対応できます。

## 目次

Red Hat Satellite Server の概要	2
Red Hat Satellite Server 6 の詳細	2
セキュリティ機能	14
相互運用性	14
仮想化	15
関連資料および情報	16

## Red Hat Satellite Server の概要

---

**質問:**すでに Red Hat Enterprise Linux® サブスクリプションでアップデートを取得できるのに、Red Hat Satellite Server を使用する必要があるのはなぜですか？

**回答:**多くの管理作業は Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションに含まれているサービスで対応できますが、Red Hat Satellite Server には広範なライフサイクル管理機能が追加されています。以下のような機能が含まれます。

- ▶ パッチ適用
- ▶ サブスクリプション管理
- ▶ プロビジョニング
- ▶ 構成管理

単一のコンソールから、1つのシステムを管理するように効率的に数千のシステムを管理できるため、システムの可用性、信頼性、監査性の向上に役立ちます。このような管理機能は、拡張を続ける Red Hat Enterprise Linux 環境を抱える組織が必要とするものです。

**質問:**Red Hat Satellite Server を使用する利点は何ですか？

**回答:**Red Hat Satellite Server は、物理環境、仮想環境、クラウド環境での Red Hat インフラストラクチャのデプロイ、スケーリング、管理を容易にするシステム管理ソリューションです。Red Hat Satellite Server は、システムが効率的かつ安全に、各種標準に準拠して稼働するよう、ユーザーによるプロビジョニング、設定、および更新を支援します。Red Hat Satellite Server を導入することでシステムの保守にかかわるほとんどのタスクを自動化できるので、組織は運用コストを削減し、戦略的ビジネスニーズにより効果的に対応できます。

**質問:**Red Hat Satellite Capsule Server とは何ですか？

**回答:**Red Hat Satellite Capsule Server は、Red Hat Satellite Server の管理対象をリモートデータセンターまで拡張します。Red Hat Satellite Capsule Server のインスタンスは通常、各リモートデータセンターにデプロイされ、プロビジョニングなどのサービスを組み合わせてローカルでも実行できるようにします。Red Hat Satellite Capsule Server は、Red Hat Enterprise Linux の認定コンテンツのローカルリポジトリを提供することに重点を置いています。このモデルは、Red Hat Satellite Server による更新、エラータ、およびソフトウェアの配信範囲を非常にスケーラブルな方法で拡大する一方で、ネットワーク帯域幅の使用を低減します。Red Hat Satellite Capsule Server は、Red Hat Satellite Proxy Server に代わるものです。

## Red Hat Satellite Server 6 の詳細

---

Red Hat Satellite Server は Smart Management サブスクリプション (バージョン管理されていない) に含まれていますが、通常、Smart Management のリリース発表よりも先にバージョン番号付きでリリースされます。

**質問:**Red Hat Satellite Server 6 の一般提供が開始されたのはいつですか？

**回答:**Red Hat Satellite Server 6.10 は、2021年11月16日に一般提供が開始されました。

- ▶ [ブログ記事](#)
- ▶ [リリースノート](#)

**質問：**Red Hat Satellite Server 6 の一般提供が開始されたのはいつですか？

**回答：**Red Hat Satellite Server 6.8 は、2020 年 10 月 27 日に一般提供が開始されました。

- ▶ [ブログ記事](#)
- ▶ [リリースノート](#)

**質問：**Red Hat Satellite Server 6 の一般提供が開始されたのはいつですか？

**回答：**Red Hat Satellite Server 6.7 は、2020 年 4 月 14 日に一般提供が開始されました。

- ▶ [ブログ記事](#)
- ▶ [リリースノート](#)

Red Hat Satellite Server 6.6 は、2019 年 10 月 22 日に一般提供が開始されました。

- ▶ [ブログ記事](#)
- ▶ [リリースノート](#)

Red Hat Satellite Server 6.5 は、2019 年 5 月 14 日に一般提供が開始されました。

- ▶ [ブログ記事](#)
- ▶ [リリースノート](#)

Red Hat Satellite Server 6.4 は、2018 年 10 月 16 日に一般提供が開始されました。

- ▶ [ブログ記事](#)
- ▶ [AnsibleFest でのリリース発表](#)
- ▶ [リリースノート](#)

Red Hat Satellite Server 6.3 は、2018 年 2 月 21 日に一般提供が開始されました。

- ▶ [ブログ記事](#)
- ▶ [リリースノート](#)

Red Hat Satellite Server 6.2 は、2016 年 7 月 27 日に一般提供が開始されました。

- ▶ [ブログ記事](#)
- ▶ [Red Hat Satellite 6 データシート](#)
- ▶ [リリースノート](#)

Red Hat Satellite Server 6.1 は、2015 年 8 月 12 日に一般提供が開始されました。

- ▶ [プレスリリース](#)
- ▶ [ブログ記事](#)

Red Hat Satellite Server 6.0 は、2014 年 9 月 10 日に一般提供が開始されました。

- ▶ [プレスリリース](#)
- ▶ [ブログ記事](#)

**質問：**Red Hat Satellite Server 6 の各バージョンの新機能にはどのようなものがありますか？

**回答：**Red Hat Satellite Server 6 の各リリースの主な機能を以下に示します。また、各リリースでは、記載されている主な機能のほか、安定性、サポート性、パフォーマンスに関する多くの修正が行われています。Red Hat は、Red Hat Satellite Server の最新バージョンにアップグレードすることを推奨しています。

### Red Hat Satellite Server 6.10

Red Hat Satellite Server 6.10 リリースでは、コンテンツ管理システムがモダナイズされ、よりシンプルになり、セキュリティが強化されています。

コンテンツ管理システムの改善：

- ▶ RPM パッケージマネージャー (RPM)、Ansible® コレクション、コンテナイメージ、ファイル、およびその他のコンテンツを切断/エアギャップされた Satellite Server に増分的に同期
- ▶ ポータブル・ストレージ・メディアに対応するために、切断/エアギャップされた Satellite Server の更新を「チャック」することが可能
- ▶ Satellite Server との間での Ansible コレクションの Ansible Automation Hub への同期をサポート

アップグレードの改善：

- ▶ タスクのバックアップまたは削除の指定をサポート
- ▶ Satellite Server または Satellite Capsule Server パッケージの存在の確認をサポート
- ▶ インストールまたはアップグレードの失敗を防ぐための自動的な環境プロキシ設定解除
- ▶ 未使用のコンテンツビューをクリーンアップする Ansible ロールを搭載

プロビジョニングの強化：

- ▶ Conver2rhel コンテンツの同期をサポート
- ▶ Convert2rhel ホストのバルク変換をサポート

自動化の強化：

- ▶ チェックモードで Ansible ジョブを実行可能
- ▶ レポート作成機能の向上
- ▶ Foreman Web フックとシェルフックをサポート

セキュリティの強化：

- ▶ コンテンツ管理が連邦情報処理標準 (FIPS) をサポート
- ▶ cloud.redhat.com からダウンロードされる修復 Playbook が、改ざん防止のためのセキュアな署名作成をサポート
- ▶ Microsoft Azure Government クラウドのサポート開始
- ▶ RESTful API (アプリケーション・プログラミング・インタフェース) 呼び出しを認証するための個人用アクセストークンをサポート

テクノロジーの更新:

- ▶ Pulp バージョン 3.14 を更新
- ▶ Puppet Server をバージョン 6.15 に更新

### Red Hat Satellite Server 6.8

Red Hat Satellite Server 6.8 リリースでは、Red Hat Satellite Server と Red Hat Satellite Capsule Server のアップグレードの改善、プロビジョニングオプションの拡張、および IPv6 サポートに重点が置かれています。

アップグレードの改善:

- ▶ Red Hat Satellite Server と Red Hat Satellite Capsule Server を個別にアップグレード (Satellite Server の方が新しいバージョンであることが必要)
- ▶ Red Hat Satellite Capsule Server のアップグレードの自動化
- ▶ Red Hat Satellite Capsule Server に含まれるプロセスを Red Hat Satellite Server が維持
- ▶ Foreman が Satellite Server の upgrade コマンドまたは upgrade-check コマンド実行時の自己更新を維持

プロビジョニングの強化:

- ▶ HTTP UEFI 経由のプロビジョニングをサポート
- ▶ Microsoft Azure の共有カスタムイメージをサポート
- ▶ Microsoft Azure のコンピューティング・リソースを改善

IPv6 サポート:

- ▶ Red Hat Satellite Server が IPv6 に対応 (コンテンツ、リモート実行、コンテナ管理、プロビジョニングを含むがこれらに限定されない)

自動化の強化:

- ▶ [Ansible Automation Hub](#) での、または Red Hat Satellite Server での RPM リポジトリ経由の Satellite Ansible Collection をサポート

Red Hat Enterprise Linux 管理の強化:

- ▶ Red Hat Satellite Server から開始される Leapp を使用した、Red Hat Enterprise Linux 7 から Red Hat Enterprise Linux 8 へのアップグレード
- ▶ パッチまたはプロセスの実行にホストでのシステム再起動が必要かどうかを判断するためのトレースをサポート

セキュリティの強化:

- ▶ Common Access Card (CAC) をフルサポート

テクノロジーの更新:

- ▶ Ansible をバージョン 2.9 に更新
- ▶ Puppet Server をバージョン 6.9.2 に更新
- ▶ Puppet Agent をバージョン 6.13.0 に更新
- ▶ PostgreSQL をバージョン 12.0 に更新

パフォーマンスとスケール:

- ▶ Dynflow ワーカーデーモンの改善

ユーザビリティ:

- ▶ サブスクリプションの有効期限に関するオプトイン E メール通知
- ▶ タスクのクリーンアップのボタン
- ▶ Insights プラグインの改善
- ▶ Citrix Cloud Connector の改善
- ▶ Simple Content Access (SCA) の改善

### **Red Hat Satellite Server 6.7**

Red Hat Satellite Server 6.7 リリースでは、セキュリティ機能とコンテンツ管理機能の強化だけでなく、新しい統合機能と統合の改善にも重点が置かれています。

統合:

- ▶ Red Hat Insights とのインベントリ共有
- ▶ Insights で Playbook を生成し、その Playbook を SAP Cloud Connector を使用して Red Hat Satellite Server 経由で実行することが可能
- ▶ automation controller の動的インベントリのパフォーマンスを向上
- ▶ Ansible Runner と Red Hat Satellite Server を併用することで Ansible 統合を改善
- ▶ Red Hat Enterprise Linux Web コンソールの統合
- ▶ Red Hat Enterprise Linux システムの目的の強化
- ▶ Red Hat Enterprise Linux モジュールストリームの強化

セキュリティ機能:

- ▶ ユーザーの偽装
- ▶ HTTP プロキシの更新
- ▶ Red Hat のシングルサインオン (SSO) テクノロジーによる CAC サポートのテクニカルプレビュー

コンテンツ管理:

- ▶ 新しいエンタイトルメント・レポートのテンプレート
- ▶ ユーザー・インタフェースを介したテンプレートのインポートとエクスポートが可能
- ▶ ソース RPM のアップロードをサポート

プロビジョニング:

- ▶ Microsoft Azure のプロビジョニングをサポート
- ▶ Google Compute Engine の強化

パフォーマンスとスケール:

- ▶ チューニングアシスタントを改善
- ▶ タスクパフォーマンスの強化

### **Red Hat Satellite Server 6.6**

Red Hat Satellite Server 6.6 リリースでは、自動化、レポート作成、サポート性の強化に重点が置かれています。

自動化:

- ▶ Ansible 2.8 アップグレード
- ▶ スマートクラスパラメーターとして使用できる Ansible 変数
- ▶ OpenSCAP を Ansible によってデプロイ

レポート作成:

- ▶ レポートのスケジューリングが可能
- ▶ レポートの E メール送信が可能
- ▶ レポート作成のパフォーマンスの強化
- ▶ 新規デフォルトで適用されたエラータに関するレポート

サポート性:

- ▶ Satellite Server 用の Red Hat Insights ルール
- ▶ コンテンツビューの依存関係の解消
- ▶ Composer の統合
- ▶ アップグレード・ワークフローの改善
- ▶ スケールの改善とパラメーターのチューニング
- ▶ タスクダッシュボード
- ▶ 通知ドロワーの項目を追加 (一時停止したタスクまたは注意が必要なタスク)

## Red Hat Satellite Server 6.5

Red Hat Satellite Server 6.5 リリースでは、Red Hat Enterprise Linux 8 を実行するホストのサポートと、Satellite Server ホストでの FIPS のサポートに重点が置かれています。

### Red Hat Enterprise Linux 8

- ▶ Red Hat Enterprise Linux 8 パッチ適用
- ▶ Red Hat Enterprise Linux 8 プロビジョニング
- ▶ Red Hat Enterprise Linux 8 アプリケーション・ストリーム
- ▶ Red Hat Enterprise Linux 8 システムの目的
- ▶ Red Hat Enterprise Linux システムロール

### セキュリティ機能:

- ▶ FIPS 対応の Red Hat Enterprise Linux 7 ホストでの Satellite Server のインストールが可能
- ▶ OpenSCAP の強化
- ▶ Satellite Server の管理者ロール

### コンテンツ管理:

- ▶ コンテンツビューのエクスポートが可能
- ▶ コンテナ管理者

### サポート:

- ▶ 主要なクラウドプロバイダーで Satellite Server または Satellite Capsules を実行することが可能<sup>1</sup>
  - ▶ Amazon Web Services
  - ▶ Microsoft Azure
  - ▶ Google Cloud Platform
  - ▶ Alibaba Cloud
  - ▶ IBM Cloud
- ▶ Infoblox インターネット・プロトコル・アドレス管理 (IPAM) をサポート

### レポート作成:

- ▶ 新しいレポート作成エンジン
- ▶ 以下のレポートの事前設定:
  - ▶ ホストのステータス

---

<sup>1</sup> 他のプロバイダーの場合はサポート例外が必要です。ホストのプロビジョニングは、Amazon Web Services (AWS) および Google Cloud Platform でのみサポートされています。



- ▶ サブスクリプション
- ▶ 登録されたホスト
- ▶ 該当するエラータ
- ▶ 独自のカスタマイズまたは作成が可能

#### **Red Hat Satellite Server 6.4**

Red Hat Satellite Server 6.4 リリースでは、ユーザー・インターフェースの強化と Ansible との統合の改善に重点が置かれています。

コンテンツ管理：

- ▶ リモート実行用に Ansible を組み込み
- ▶ Ansible を介して Red Hat Insights をデプロイ
- ▶ Ansible の統合と Ansible Roles
- ▶ Puppet 5 をサポート
- ▶ Git からのテンプレートのプルが可能

ユーザビリティ：

- ▶ 垂直方向のナビゲーション
- ▶ Red Hat リポジトリのページをアップデート
- ▶ 通知ドロワーの強化
- ▶ コンポーネントのコンテンツビューを自動的に再公開
- ▶ Satellite Server 内のマニフェストの更新が可能
- ▶ ユーザーイベントの監査

サポート性：

- ▶ AWS GovCloud のプロビジョニング
- ▶ カプセルの負荷分散
- ▶ データベースを Satellite Server からオフロードすることが可能
- ▶ Docker のプライベートリポジトリをサポート
- ▶ カスタム設定の保持

パフォーマンスと安定性：

- ▶ Red Hat Enterprise Linux パフォーマンス・コパイロットの統合
- ▶ MongoDB を 3.x にリベース
- ▶ PostgreSQL をチューニング
- ▶ その他のパフォーマンスと安定性の修正

## Red Hat Satellite Server 6.3

Red Hat Satellite Server 6.3 リリースには、製品の安定性とユーザビリティを向上させる主要な機能が含まれています。

### コンテンツ管理:

- ▶ コンテンツのダウンロードポリシーと同期を改善 (遅延同期ツール)
- ▶ 新しいカスタムファイルタイプのリポジトリ

### システムのプロビジョニング:

- ▶ プロビジョニング・テンプレートを管理する機能を向上 (Git ツールからテンプレートをプル: テクニカルプレビュー)
- ▶ VMware ブートディスクイメージ (テクニカルプレビュー)

### 構成管理:

- ▶ automation controller 統合のベストプラクティス
- ▶ Puppet 3.8 と Puppet 4 を Red Hat がフルサポート

### サポート性:

- ▶ AWS Elastic Compute Cloud (EC2) で稼働する Satellite Server および Satellite Capsule Server を Red Hat がフルサポート

### セキュリティとユーザーアクセス:

- ▶ 組織の管理者ロールを新たに定義し形式化
- ▶ 新しい OpenSCAP テーラリングファイル

### ユーザビリティ:

- ▶ ユーザー・インタフェース (UI) 通知を改善 (通知ドロワーツール)
- ▶ 先日付の新規サブスクリプション
- ▶ 既存の Satellite Server を新規ホストに複製することが可能 (クローニングツール)
- ▶ 構成の変更中に Satellite Server のホスト名を変更することが可能 (名前変更ツール)
- ▶ 新しい仮想化エージェント (virt-who) 構成ウィザード
- ▶ 新しいトレーサーツール (テクニカルプレビュー)

## Red Hat Satellite Server 6.2

Red Hat Satellite Server 6.2 の注目すべき新機能は次のとおりです。

- ▶ 自動化されたワークフロー：リモートの実行、リモート実行ジョブのスケジューリング、拡張されたブートストラップ、プロビジョニングオプションを含む機能。
- ▶ エアギャップセキュリティおよびフェデレーション：RPM コンテンツを同期して Satellite Server から別の Satellite Server にエクスポートすることができます。
- ▶ ソフトウェア管理の改善：単純化されたスマート変数管理が利用できるようになりました。
- ▶ Capsule の改善：Capsule のヘルスチェックや全体のパフォーマンスで確認できる項目が増えました。Capsule はさらに軽量化し、クライアントが必要なコンテンツのみを保存するように設定できるようになりました。さらに、Capsule には、可用性の高い Red Hat Satellite Server カプセルをデプロイする機能を含む新しいリファレンスアーキテクチャがあります。
- ▶ Atomic OSTree およびコンテナ：Satellite Server を使用して、Red Hat Enterprise Linux Atomic Host とコンテンツのミラーリング、プロビジョニング、管理を実行できます。また、Red Hat レジストリ、Docker Hub やサードパーティソースなどのコンテナリポジトリをミラーリングすることができます。Satellite Server は、精選された、より安全なコンテナコンテンツのエントリーポイントを提供します。
- ▶ ドキュメントの改善：

新規ドキュメント：

- ▶ 仮想インスタンスガイド：virt-who の設定方法に関する情報を記載
- ▶ Hammer コマンドライン・インタフェース (CLI) ガイド：Red Hat Satellite Server CLI の使用方法を説明
- ▶ コンテンツ管理ガイド
- ▶ クイックスタートガイド

アップデートされたドキュメント：

- ▶ ユーザーガイド：使いやすくするためにサーバー管理とホスト設定のセクションに分割
- ▶ 特定のトピックに関するチートシートを利用可能

Lazy Sync：

- ▶ Satellite Server 6.2.3 は、Lazy Sync 機能を提供します。これは、コンテンツのダウンロード時の柔軟性を向上し、コンテンツのダウンロード方法に影響する新しいダウンロードポリシーを提供します。
- ▶ Lazy Sync は、テクノロジープレビューとして、以前の Satellite Server 6.2 リリース (6.2.0 から 6.2.2) に含まれています。
- ▶ Lazy Sync は Satellite Server 6.2.3 でフルサポートに移行します。

### Red Hat Satellite Server 6.1

Red Hat Satellite Server 6.1 には、安定性、信頼性、拡張性を改善するその他の多くの機能と修正が含まれます。

- ▶ エラー管理
- ▶ コンテナ管理
- ▶ プロビジョニングの強化
- ▶ 切断された環境のサポート
- ▶ SCAP の操作
- ▶ 高度なベアメタル検出
- ▶ ユーザーロールの Microsoft Active Directory グループ

### Red Hat Satellite Server 6.0

Red Hat Satellite Server 6.0 の注目すべき新機能は次のとおりです。

- ▶ ベアメタル、プライベートクラウド、パブリッククラウドにわたるプロビジョニング
- ▶ Puppet Forge と Git の統合
- ▶ フェデレートされたライフサイクル管理
- ▶ ドリフト修正
- ▶ ライフサイクル管理のコンテンツビュー
- ▶ システム検出

**質問：**Red Hat Satellite Server 6 はどこでダウンロードできますか？

**回答：**Red Hat Satellite Server 6 は、Red Hat Satellite Server サブスクリプションの一部として [Red Hat カスタマーポータル](#) でダウンロードできます。

**質問：**Red Hat Satellite Server 6 のリリースノート、テクニカルノート、公式ドキュメントはどこにありますか？

**回答：**[ドキュメント](#) は、Red Hat カスタマーポータルで入手できます。

**質問：**Red Hat Satellite Server 6 ではどのようなインフラストラクチャをサポートしていますか？

**回答：**ベアメタル、Red Hat Virtualization、Red Hat OpenStack® Platform、VMware をサポートしています。

**質問：**Red Hat Satellite Server 6 のアップストリームとして機能するオープンソース・プロジェクトは何ですか？

**回答：**主なプロジェクトとして、Foreman、Katello、Pulp、Candlepin、Puppet があります。

**質問:** Red Hat Satellite Server 6 のコンポーネントについてサポートされる使用方法はどのようなものですか？

**回答:** Red Hat Satellite Server のすべてのコンポーネント (Foreman、Katello、Pulp、Candlepin、Puppet など) とその使用は、Red Hat Satellite Server のコンテキスト内でのみサポートされます。サードパーティのコンポーネントの使用はサポート外になります。詳細は、[Red Hat Satellite Server 6 の計画の Red Hat Satellite Server 6 のサポートされる使用方法](#)の章を参照してください。

**質問:** Red Hat Satellite Server 5 から Red Hat Satellite Server 6 にアップグレードするにはどうすればよいですか？また、インプレース・アップグレードは可能ですか？

**回答:** Red Hat Satellite Server 5 と Red Hat Satellite Server 6 の製品アーキテクチャは異なります。Red Hat Satellite Server 6 リリースは新規にインストールする必要があります。Red Hat Satellite Server 5 リリースから Red Hat Satellite Server 6 リリースへのインプレース・アップグレードはできません。Red Hat Satellite Server を使用中のお客様には、Red Hat Enterprise Linux 環境を Red Hat Satellite Server 6 で管理するオプションが多数あります。Red Hat Satellite Server 5 から Red Hat Satellite Server 6 への移行の詳細については、[Red Hat Satellite Server 5 から 6 への移行に関する FAQ](#) および [Red Hat Satellite Server 5 から Satellite Server 6 への移行](#)を参照してください。

また、Red Hat コンサルティングでは移行支援のサービスを提供しています。詳細は[データシート](#)をご覧ください。

**質問:** Red Hat Satellite Server 6 で Red Hat Enterprise Linux 7 クライアントシステムを管理できますか？

**回答:** はい。Red Hat Satellite Server バージョン 5.6 以降では、Red Hat Enterprise Linux 7 のコンテナおよびシステムを管理することができます。

**質問:** Red Hat Satellite Server 6 で Red Hat Enterprise Linux 8 クライアントシステムを管理できますか？

**回答:** はい。Red Hat Satellite Server バージョン 6.5 以降では、Red Hat Enterprise Linux 8 のコンテナおよびシステムを管理することができます。

**質問:** Red Hat Satellite Server では高可用性 (HA) が提供されていますか？

**回答:** Red Hat Satellite Server 6.4 では、カプセルの負荷分散がサポートされていますが、これは Red Hat Satellite Server の高可用性を提供しません。Red Hat Satellite Server の高可用性を実現するために推奨される方法は、Red Hat Satellite Server を実行しているホストを仮想化し、お客様が選択したハイパーバイザーが提供する高可用性機能を使用することです。詳細は、[Red Hat Satellite Server 6.6、6.7、6.8 での高可用性 \(HA\)](#)を参照してください。

**質問:** ベータ版の顧客向けのアップグレードパスはどのようなものですか？

**回答:** ベータ版から GA 版へのアップグレードはサポートされていません。新規インストールを行う必要があります。[Red Hat Satellite Server のアップグレードと更新](#)でドキュメントを提供しています。また、Red Hat カスタマーポータルには、インタラクティブな[アップグレードヘルパー](#)があります。

**質問:** Red Hat Satellite Server が管理できる Red Hat 製品は何ですか？

**回答:** Red Hat Satellite Server は、RPM ベースの製品を管理できます。これには、Red Hat Enterprise Linux、Red Hat Virtualization、Red Hat OpenStack Platform、Red Hat JBoss® Enterprise Application Platform、Red Hat Data Services などがあります。

**質問:** Red Hat Satellite Server のサポート終了 (EOL) 情報はどこで確認できますか？

**回答:** Red Hat [Satellite Server の製品ライフサイクルサポートのページ](#)で、Red Hat Satellite Server のリリースと EOL サイクルを確認できます。

## セキュリティ機能

---

**質問:** 現在の環境では、Red Hat Satellite Server から Red Hat にネットワーク接続できません。他にどのような方法がありますか？

**回答:** Red Hat Content Delivery Network (CDN) からステージングシステムにコンテンツをダウンロードして、物理メディアに保存しておく、認定コンテンツを最新の状態に保つことができます。厳しいセキュリティ要件を抱える多くの組織が、オフラインで Red Hat Satellite Server 構成を使用しています。

**質問:** Red Hat Satellite Server と管理対象ノードの間のセキュリティはどのように強化されますか？

**回答:** 管理者の機能として、Red Hat Satellite Server では、Red Hat Satellite Server 経由で行われるあらゆるアクティビティに対する完全な監査と、ポリシーと権限を割り当てるシンプルなロールベース管理が可能です。

## 相互運用性

---

**質問:** Red Hat Satellite Server は、Hewlett Packard (HP) や IBM などのベンダーの管理製品と連携できますか？

**回答:** Red Hat Satellite Server の API を使用して、製品の内部でコマンドのスクリプトを作成し、他の管理製品と情報を交換できます。多くのお客様が API を使用して Red Hat Satellite Server を HP や IBM などのベンダーの管理ツールと統合しています。

**質問:** Red Hat Satellite Server 6 を実行するには、どのようなタイプのハードウェアが必要ですか？

**回答:** [接続しているネットワークからの Red Hat Satellite Server のインストールガイドの最新バージョン](#)を参照してください。次の最低限のスペックを持つ、ネットワークに接続されたホストが最低1台必要です。

- ▶ 64 ビット・アーキテクチャ
- ▶ Red Hat Enterprise Linux 7 の最新バージョン
- ▶ 4 コア 2.0GHz の中央処理装置 (CPU)
- ▶ 最低 20 GB のメモリー
- ▶ 4 GB 以上のスワップ領域を推奨
- ▶ 固有のホスト名 (英小文字、数字、ドット (.)、ハイフン (-) を使用可能)
- ▶ 現在の Red Hat Satellite Server サブスクリプション
- ▶ 管理ユーザー (root) アクセス
- ▶ umask 0022 のシステム
- ▶ 完全修飾ドメイン名を使用した完全転送および逆 DNS 解決

Red Hat Satellite Server または Red Hat Satellite Capsule Server をインストールする前に、ご使用の環境がインストール要件を満たしていることを確認してください。

Red Hat Satellite Server は、Red Hat Satellite Server の実行以外の機能を提供しない、新規にプロビジョニングされたシステムにインストールする必要があります。

**注:** Red Hat Satellite Server 6.8 以前では、Red Hat Satellite Server と Satellite Capsule Server のバージョンが一致する必要があります。たとえば、Red Hat Satellite Server 6.6 では Red Hat Satellite Capsule Server 6.7 を実行できず、Red Hat Satellite Server 6.7 では Red Hat Satellite Capsule Server 6.6 を実行できません。Red Hat Satellite Server 6.8 よりも古いバージョンの場合、Satellite Server と Satellite Capsule Server のバージョンが一致していないと、Satellite Capsule Server がサイレントに失敗します。

**質問:** 現在の環境で Red Hat Satellite Server を実行するには、どのような種類のデータベースが必要ですか？

**回答:** Red Hat Satellite Server 6 には、PostgreSQL データベースと MongoDB データベースが組み込まれています。

**質問:** Red Hat Satellite Server 向けのインストールとコンサルティングのサービスはありますか？

**回答:** はい。Red Hat は、Red Hat Satellite Server のお客様専用のコンサルティングを提供しています。詳細については [Red Hat のセールス担当者までお問い合わせ](#) ください。

**質問:** 既存の環境で Red Hat Satellite Server を試すには、どのようなオプションがありますか？

**回答:** Red Hat は現在、30 日間の試用評価版を提供しています。詳細については [Red Hat セールス担当者までお問い合わせ](#) ください。

**質問:** Red Hat Satellite Server には、どのサービスレベルが含まれているのですか？

**回答:** Red Hat Satellite Smart Management のエンタイトルメントの場合、現在オペレーティングシステムでサブスクライブしているものと同じサービスレベル契約 (SLA) を入手できます。Red Hat Satellite Server および Red Hat Satellite Capsule Server のモデルには、Red Hat Enterprise Linux Premium サブスクリプションが含まれているため、お客様は Premium サポートをご利用いただけます。

## 仮想化

---

**質問:** Red Hat Satellite Server で Red Hat Enterprise Linux の仮想インスタンスを管理できますか？

**回答:** Red Hat Satellite Server は、任意のサポート対象ハイパーバイザーで Red Hat Enterprise Linux を実行しているシステムを管理できます。これには [Red Hat Virtualization](#) と VMware も含まれます。この方法で管理するには、Red Hat Satellite Server によって管理される各 Red Hat Enterprise Linux システムが、必要な Smart Management のエンタイトルメントを保持している必要があります。

**質問:** Red Hat の仮想化テクノロジーを使用して Red Hat Satellite Server を仮想インスタンスとして実行することはできますか？VMware を使用して実行することはできますか？

**回答:** 現在、Red Hat Satellite Server および Red Hat Satellite Capsule Server は、Red Hat Enterprise Linux でサポートされています。ゲストは、Xen、Kernel-Based Virtual Machine (KVM)、VMware などのサポート対象ハイパーバイザーによってホストされます。

## 関連資料および情報

**質問:** 詳細情報はどこで入手できますか？

**回答:**

- ▶ [Red Hat カスタマーポータル](#)の [Red Hat Satellite Server](#) ランディングページ
- ▶ [Red Hat Satellite Server 6](#) の製品ドキュメント
- ▶ [Red Hat Satellite Server](#) に関するブログ

トレーニング:

- ▶ [RH053: Red Hat Satellite Server Technical Overview \(Red Hat トレーニング\)](#)
- ▶ [RH053: Red Hat Satellite Server Technical Overview \(Udemy\)](#)
- ▶ [RH403: Red Hat Satellite Server 6 Administration](#)

その他の資料:

- ▶ [Red Hat Satellite Server](#) アップグレードヘルパー
- ▶ [Red Hat Satellite Server 6: コアとなる標準運用環境 \(SOE\) の推奨プラクティス](#)
- ▶ [Red Hat サポート](#)



### Red Hat について

エンタープライズ・オープンソース・ソフトウェア・ソリューションのプロバイダーとして世界をリードする Red Hat は、コミュニティとの協業により高い信頼性と性能を備える Linux、ハイブリッドクラウド、コンテナ、および Kubernetes テクノロジーを提供しています。Red Hat は、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、既存および新規 IT アプリケーションの統合、複雑な環境の自動化および運用管理を支援します。受賞歴のあるサポート、トレーニング、コンサルティングサービスを提供する Red Hat は、フォーチュン 500 企業に信頼されるアドバイザーであり、オープンな技術革新によるメリットをあらゆる業界に提供します。Red Hat は企業、パートナー、およびコミュニティのグローバルネットワークの中核として、企業の成長と変革を支え、デジタル化が進む将来に備える支援を提供しています。

<b>アジア太平洋</b> +65 6490 4200 apac@redhat.com	<b>インドネシア</b> 001 803 440 224	<b>マレーシア</b> 1800 812 678	<b>中国</b> 800 810 2100
<b>オーストラリア</b> 1800 733 428	<b>日本</b> 03 4590 7472	<b>ニュージーランド</b> 0800 450 503	<b>香港</b> 800 901 222
<b>インド</b> +91 22 3987 8888	<b>韓国</b> 080 708 0880	<b>シンガポール</b> 800 448 1430	<b>台湾</b> 0800 666 052

[f fb.com/RedHatJapan](https://fb.com/RedHatJapan)  
[t twitter.com/RedHatJapan](https://twitter.com/RedHatJapan)  
[in linkedin.com/company/red-hat](https://linkedin.com/company/red-hat)

[jp.redhat.com](https://jp.redhat.com)  
 #F30799\_1221

Copyright © 2021 Red Hat, Inc. Red Hat, Red Hat ロゴ, Ansible、および JBoss は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。Linux® は、米国およびその他の国における Linus Torvalds 氏の登録商標です。OpenStack® ワードマークと Square O Design は個別に、または一体として米国とその他の国における OpenStack Foundation の商標または登録商標であり、OpenStack Foundation の許諾の下に使用されています。Red Hat は、OpenStack Foundation と OpenStack コミュニティのいずれにも所属しておらず、公認や出資も受けていません。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。